

地域懇談会Q&A集



町自治連絡協議会主催の平成30年度地域懇談会が11月16日から11月22日にかけて、各地区4会場で開催されました。町からは井上久男町長をはじめとする幹部職員が出向き、参加された述べ102人の町民の皆さんと直接対話しました。地域の現状やこれからのまちづくりのあり方などについて、多くのご意見やご質問、ご要望をいただきましたので、内容の一部を「質疑応答集」としてご紹介します。

秋田地区

●11月16日(金)●秋田地区住民センター●参加者28人

問 町道106号嘉藤地付近の排水対策を要望する。

答 水が集中する地形となっており、大雨が降ると路面に土砂が堆積し通行にも支障をきたしている。側溝が詰まれば土砂上げするしかないが、畑からの土砂がかなり含まれている。排水対策については、町で実施していく範囲は公共物が基本であるため、農地内の側溝の土砂を上げる場合は「多面的機能支払交付金」を活用する。今年度、勝山では農地は多機能で側溝を掘り、その先の道路側溝を町で土砂上げをしている。連携していきながら対策を考えていきたい。

問 伸郷道路(林道)は、現在の砂利では大雨のたびに流されやすいので、山砂利が良いのではないか。舗装の修繕もお願いしたい。

答 山砂利を使用するように指示する。ただし、

その時の在庫状況によりできないこともある。なお、林道の舗装については現況の材質ではなく「アスファルト」で実施する。

問 雄勝の大崎宅前から境野方面のスノーポールの位置が、大型車などが通ると接触の危険があるため、移動するなど対応してほしい。

答 障害となるポールに目印(測量テープなど)を付けていただければ、対応する。

問 各地区に自主防災組織が設置されたが、行政側としてこれからどう指導していくのか。

答 現在は、秋田地区のほかに、勝山地区や境野地区で自主防災組織が設立されている。町としては、この共助の意識の高まりをさらに地域での防災活動につなげられるよう、その地域に合ったものを地域と相談しながら支援していきたい。防災知識の向上や意識統一のための防災学習会や防災訓練、地域の危険箇所の洗い出し及び再確認をするためのワークショップなど、あらゆる知識と情報を使って、自主防災組織活動の推進につながるような働きかけをしていきたいと考えている。自主防災組織は設立が目的ではなく、設立後の活動が最も大切なことであることを再確認し、地域の自主防災活動に携わっていきたい。

問 災害時、道路寸断等で町からの応援がない場合に地域がどう対処するかマニュアルを指導していただきたい。

答 地域としての行動マニュアルを作成すること